

報告

第 46 回 北海道支部定期総会報告

長 井 智 典

1. はじめに

日本技術士会北海道支部の第 46 回定期総会が 2011 年 4 月 28 日(木) ホテル札幌ガーデンパレスで開催されました。総会の配付資料(議案内容等)については、本会誌後ろの定期総会報告に掲載しておりますのでご覧下さい。ここでは、昨年度と同様、主に総会審議の概要と講演会および懇親会の会場の様子を中心に報告します。

2. 総会

(1)出席状況

- ・支部会員 162 名
- ・会友他 48 名
- ・委任状 467 名

会場出席者は、合計 210 名

(2)第 1 号議案の審議

斉藤支部長の挨拶に続き、第 1 号議案である平成 22 年度事業報告及び決算報告が行われ、増田会計監事の監査報告後、特に質問や意見がなく、賛成多数で無事承認されました。



写真-2 開会挨拶をする斉藤支部長(その2)



写真-3 右より斉藤支部長、能登副支部長、中野副支部長、大島副支部長



写真-1 開会挨拶をする斉藤支部長(その1)

(3)第 2 号議案の審議

第 2 号議案である平成 23 年度事業計画及び予算については、森事務局次長の説明後、審議に入りました。会場の 5 名の方から質問と意見がありましたが、賛成多数で無事承認されました。

審議における主な内容は次のとおりです。

「技術士会支部のホームページ等、情報発信の仕方が内向きであり、一般向けではないため検討すべき」、「情報発信については、支部のみではなく各部会においても同様」、「専門組織立ち上げなど本格的

に取り組むべき」との意見に対し、総務委員会にて審議することで了解を頂きました。

「公益社団法人への移行に伴い、会友の仕組みに変更はないのか」という質問に対し、現状ではこれまでと変更がない旨をご説明し、了解を頂きました。



写真-4 内容を説明する森事務局次長



写真-5 会場の様子(その1)



写真-6 質疑応答の様子(その1)



写真-7 質疑応答の様子(その2)

(4) 第3号議案の審議

第3号議案である役員の選出を行いました。

最初に支部規則第9条に従って支部長の選出を行いました。会場から事務局案提示のご要望がありましたので、事務局案として斉藤現支部長を支部長に推す案を提示し、満場一致で可決しました。

続いて支部規則第10条及び支部規則内規に従って、斉藤支部長が指名する副支部長、会計監事、幹事、事務局長の役員名簿(案)が配布され、賛成多数で承認されました。加えて、事務局長が指名する事務局次長や、支部長が委嘱する顧問についても同じく承認され、平成23・24年度の支部役員体制が決定しました。

なお、平成23・24年度の北海道支部の新体制と役員名簿については、本会誌の後ろに掲載されている役員名簿をご覧ください。



写真-8 会場の様子(その2)

(5) 報告事項

事務局より平成23年度(社)日本技術士会会長表彰の推薦について報告がありました。総務委員会を選考され、支部役員会で了承されたことから、北海

道支部からは大熊正信支部幹事と中村良則支部幹事のお二人を推薦することになりました。

(6) その他

総会の議事が全て終了した後、斉藤支部長が挨拶され、続いて平成23・24年度の役員の方々の紹介がありました。

また、今年度は(社)日本技術士会理事の改選期となっており、北海道支部からは唯一人、能登副支部長が理事選挙に立候補され挨拶されました。

以上をもって総会は終了しました。

3. 講演会

今回はNPO法人環境防災総合政策研究機構理事の新谷融氏をお招きし、「技術士の地域社会貢献の可能性について」と題して、ご講演を頂きました。

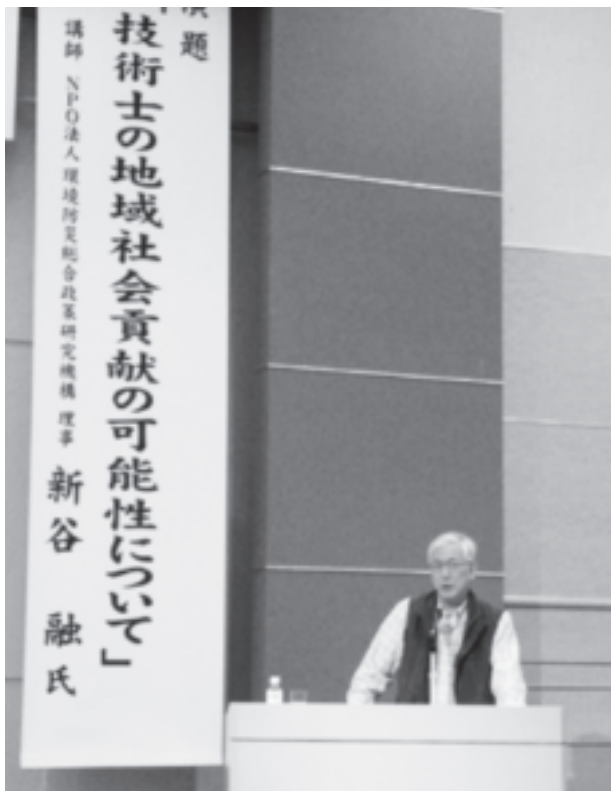


写真-9 講演する新谷理事

講師である新谷理事は、北海道をフィールドとして、火山・地震・豪雨などによる流域緑地の荒廃と環境劣化を対象に、その対応策となる流域防災・環境保全の原理を研究され、砂防学会会長、中央防災会議専門委員、火山噴火緊急減災対策に関する検討

会委員長、北海道防災会議専門委員などを歴任した後、現在はNPO法人環境防災総合政策研究機構理事を努めておられます。専門分野は砂防学(農学博士)であり、「有珠山—その変動と災害」(編著、北海道大学図書刊行会、1988)、「流域動態の認識とその方法」(編著、北海道大学図書刊行会、2001)などの著書がございます。

(1) 主な講演内容項目

今回、新谷理事は主に下記の3つの項目について講演されました。

1. 地域に語り継がれている防災情報
2. 住民自主の安全まちづくり
3. 技術士の地域住民サポート機能

これらの中からいくつかの項目について、私の主観を通して概要を紹介します。

(2) 地域に語り継がれている防災情報

北海道における義経伝説や近藤重蔵による北方調査のお話を交えながら、北海道の先住民であるアイヌ民族は豊かさの情報とともに災害情報も生きる知恵として蓄積しており、アイヌ語の地名・地図から私たちは、その情報を手に入れることができると説明されていました。さらには、開拓移民の情報、郷土史からも災害情報を得ることができるが、我々は近年の災害情報も忘れつつあるのではないかと、いった問題を指摘されていました。

かつて、国土100年の計として200年前まで遡り、計画を立てるよう言われていたが、今回の東日

1. 地域に語り継がれている防災情報

【-3. 先住民情報(アイヌ語地名)からみた川の恵みと災い(砂流川流域)】

生活資源	環境・文化	災害(津波)	災害(火・土砂)
番号	漢 字 名	アイヌ語名	備 考
1	シノダ	シノダ	水田・稲作・林
2	豊川(はんたがわ)	トシノ川	水田・稲作
3	砂流川(砂・流川)	サリ・アサ	砂流(アサ)・川
4	草野	カサ・アサ	草・のり・アサ
5	エノ川	エノ川	水田・稲作(水田の材料)
6	カサ	カサ	川(水田・稲作)・水田・稲作
7	シノダ	シノダ	水田・稲作
8	コシノ川	コシノ川	水田・稲作(水田・稲作)
9	草野	カサ・アサ	草・のり・アサ
10	草野	カサ・アサ	草・のり・アサ
11	草野	カサ・アサ	草・のり・アサ
12	草野	カサ・アサ	草・のり・アサ
13	草野	カサ・アサ	草・のり・アサ
14	草野	カサ・アサ	草・のり・アサ
15	草野	カサ・アサ	草・のり・アサ
16	草野	カサ・アサ	草・のり・アサ
17	草野	カサ・アサ	草・のり・アサ

図-1 講演資料の抜粋(その1)



図-2 講演資料の抜粋(その2)

本大震災はその概念が通用しないとも話しされていました。まさしくお話のとおりであり、災害の映像を思い浮かべ、私も身の引き締まる思いがしました。

そして、災害教訓の伝承、地域防災教育、家族連携から減災を可能とした 1926 (大正 15) 年の十勝岳噴火・泥流災を例に挙げられ、地域(住民)連携の重要性を説明されました。

家族連携では、大正噴火の際、上富良野町・新井牧場の佐々木一族において、万一の事態に備え普段から家族の間で話し合いが持たれ、10 歳の次男が災害兆候を確認し、家族に知らせ被災を免れたお話があり、今回の東日本大震災においても、岩手県釜石市内の中学生が不安がる小学生を誘導し、迅速に避難した結果、ほぼ全員が無事であったことを思い起こしました。

普段からの役割分担と備えがあれば、青少年であっても確実に行動し避難できると話されていました。

(3) 住民自主の安全まちづくり

2002 (H14) 年の防災白書により、「自助」「共助」「公助」の考えが示された際、「公助」が、「自助」・「共助」の連携に対し、情報公開、普及・啓発を行う、一方向の矢印で、公の重みを減らしているように読み取ることができ、本来は、双方向の三角形になるべきと話されていました。当時は、「民間でできることは民間で」「地方でできることは地方で」を原則に、簡素で効率的な政府の構築が求められており、過渡期であったのではないかと思います。

また、共助については、GHQ の隣組廃止による活動制限等により衰退の傾向があったが、いまこそもう一度、日本の心を取り戻さなければならい」と説明されていました。

核家族化や隣人との関係が希薄になる中で、改めて人間関係を見つめ直す良い機会となりました。

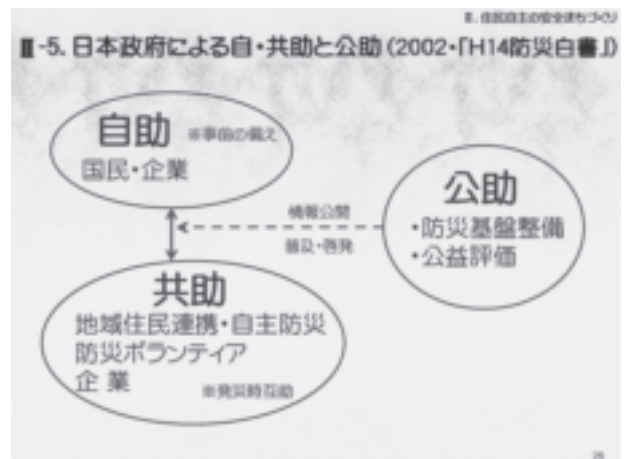


図-3 講演資料の抜粋(その3)

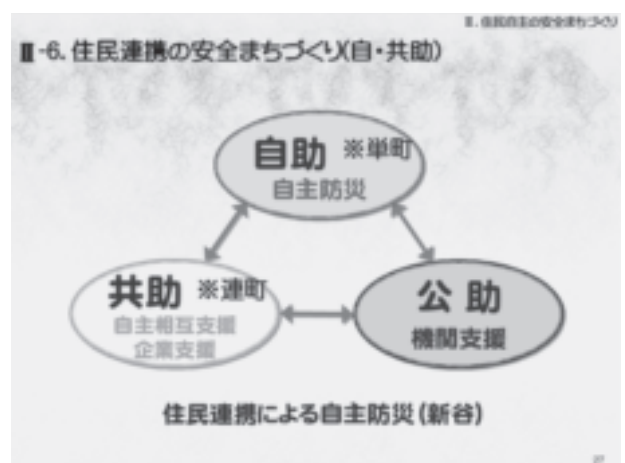


図-4 講演資料の抜粋(その4)

住民自主防災については、様々な備えが必要であり、最も重要な備えが、「心の備え」と話されていました。その他、「身体の備え」として安全なまちづくり、「人の備え」として地域の語り部や学校の重要性を話され、住民自主のためには、それを支援する人と手を組まなければならないと話されました。

(4) 技術士の地域住民サポート機能

住民連携で自主防災を行うには、サポートする専門組織が必要であり、札幌市の土砂災害の危険箇所

数を示した図や、札幌市の洪水ハザードマップを例に挙げ、誰が住民に解説してくれるのか、問題を投げ掛けておられました。

そして、技術士が地域に対して行わなければならない活動は二つあり、一つ目は社会教育、もう一つは、地域同士、町内会同士といった連携調整サポートであると話されました。社会教育については、北海道支部防災委員会にて行っている、市民向け防災セミナー（コンサルタンツ北海道 第 122 号掲載）により活動を行っていたのですが、地域間連携の調整サポートという一歩進んだニーズがあることを学びました。

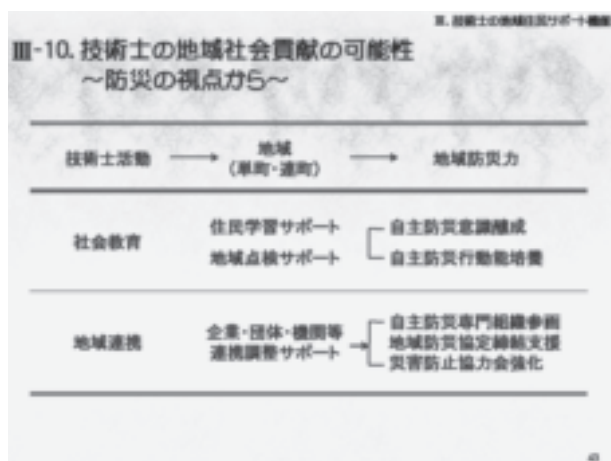


図-5 講演資料の抜粋(その5)

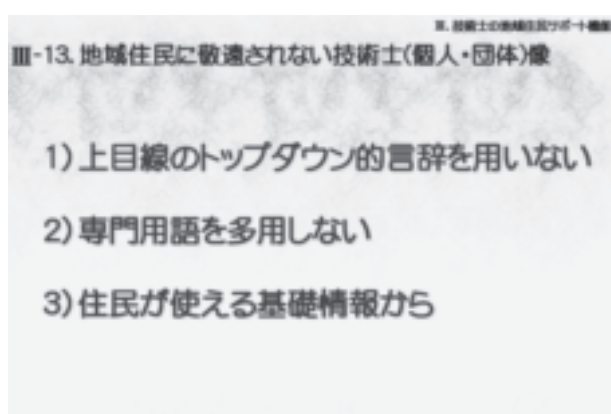


図-6 講演資料の抜粋(その6)

また、技術士が地域住民をサポートするうえで、地域住民に敬遠されない留意点も示され、地域社会の構成員の一人として、普段から気を付けなければならないと思いました。

最後に、自治体行政による泥流危険域への移住促進と資産集積動向について話され、行政は何も変わっていないのではないか、と問題提起されていました。

(5) 講演会に使用したスライド資料

本報告の中でも一部使わせて頂いておりますが、新谷理事のご厚意により今回の講演で使用したスライドの PDF ファイルを頂いております。平成 23 年 9 月末までの期間、北海道支部ホームページの「会員のページ」にてダウンロードできますので、ご希望の方は下記 URL をご覧下さい。

但し、「会員のページ」にアクセスするには北海道支部の会員 ID とパスワードが必要です。

URL : <http://www.ipej-hokkaido.jp/>

4. 懇親会

(1) 出席状況

17：45 より会場を隣の部屋に移して懇親会が開催されました。懇親会には会員他 112 名の出席によって満席となり盛況でした。



写真-10 懇親会会場の様子(その1)

(2) 懇親会の状況

熱気あふれる中、斉藤支部長の挨拶の後、能登副支部長の乾杯の音頭で開宴となり、懇親会がスタートしました。

懇親会では各テーブル席での歓談に止まらず、色々なところで挨拶と名刺交換が行われ、東日本大震災の話題や最近の道内景気に関する情報交換により熱気を帯びていました。



写真-11 懇親会会場の様子(その2)

そのような中、今回の総会により退任された大谷事務局長にご登壇頂き、率直な心境を語って頂きました。

大谷事務局長におかれましては、平成9年度から北海道技術士センター事務局次長、平成13年度～同 事務局長、平成19年度～平成22年度まで北海道支部事務局長を務められました。

計14年に亘って、北海道の技術士活動の支えとなっており、会場全体には深い感謝と淋しさの雰囲気漂っていました。



写真-12 退任の挨拶をする大谷事務局長

皆さんの笑顔と歓談が尽きず名残惜しい中、最後に中野副支部長と大島副支部長が演台に上がり、乾杯で会を締めくくり、懇親会はお開きとなりました。

5. おわりに

東日本大震災により被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。



写真-13 大島副支部長、中野副支部長による乾杯

一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

東日本大震災に対し、(社)日本技術士会北海道支部では、平成23年度の支部全体の事業テーマとして取り組むことといたしました。今後は、支部防災委員会を窓口とし、各委員会・研究会において様々な活動が行われることとなりますのでご協力のほど、宜しくお願いいたします。

また、(社)日本技術士会は、平成23年4月11日付けにて公益社団法人としての登記手続きを完了致しました。法人名称および組織名称の変更については、本会誌にある事務局からのお知らせをご覧ください。

上記とあわせ、これまで以上に支部活動が盛んとなるよう、会員・会友皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

長 井 智 典(ながい とものり)

技術士(建設/総合技術監理部門)

(社)日本技術士会北海道支部 事務局次長
株式会社 ドーコン

